

令和6年度（2024年度）熊本県立芦北高等学校 第2学期終業式

校長あいさつ

令和6年（2024年）12月23日（月）草野 貴光

皆さん、おはようございます。

2学期も皆さんの様々な頑張りがあり嬉しい学期になりました。人それぞれの頑張り方があり、人から見える頑張り、人からは見えない頑張りをした人もいます。困った事、心配な事を抱えながら過ごしていた人もいますが、お互いに理解し合っている皆さんは素晴らしいと思います。

先日の長距離走大会は皆さんそれぞれによく頑張りました。一緒に走れたので私もしっかりと走れました。前に目標となる人がいてくれることの大切さも改めて感じました。何事に対しても、自分に厳しくあること、懸命であること、自信を持てるようになることは、とても大切なことです。

今年の1月1日は能登半島地震が起こり、さらに羽田空港での航空機事故があり、年の始まりに不安を感じた人が多くいたと思います。その後も全国各地で災害が起こり、復旧復興が行われています。各地に心をつなげることは私たちにもできます。心の復興に要する時間は人それぞれです。互いの存在を尊重しつつ、思いに寄り添っていききたいものです。皆さんはそれができる人たちです。

さて、三点、皆さんに話をします。

相手が「してほしいこと」より「嫌がること」を想像してみてください。人と接する時、「相手がしてほしいことを想像してみてもうどうだろうか」と提案することがあります。しかし、相手が喜ぶことは趣味嗜好があり、千差万別です。ということは、自分が喜ぶことと相手が喜ぶことは異なるということかも知れません。ひょっとしたら相手に良かれと思ったことが、実は自己満足だったということもあるのではないのでしょうか。

一方で、すべての人が嫌がることを想像するのは比較的しやすいかと思います。実際に嫌なこと、苦手なこと、自分がされたくないことは似ているからです。「相手が嫌がることはしない」という思いやりがあります。一つの考え方として知っておいてください。

次に「道徳」についてです。そもそも「道徳」は、日常の中にあるべきことで、約束した時間を間違えないようにするのも道徳、人に対して譲るべきものは相応に譲るのも道徳、人に安心感を与えるのも道徳、何かをするのに弱い人を助けるのも道徳で

す。ちょっとした何か行動を起こす際にも必ず道徳はその中に含まれます。ということとは朝から晩まで道徳はその人に付いて回ります。ところが、道徳を難しいことのように捉え、日常の片隅に追いやっていないでしょうか。「今日から道徳を大切に生活する」、「この時間は道徳を勉強する時間」、今も「道徳」についてと話し出したときに難しく考えて身構えた人もいたかも知れません。より良い明日のため、社会全体の秩序を保つために、守るべきこととして自分自身の行動の規準にしてください。道徳心を持った人は、他者かも大切にされます。

三つ目に「苦言を言う人を愛す」ということです。苦言は自分では気づかないことを教えてもらえる大切な言葉です。心身の成長期にある皆さんにとっては、聞きづらいこともあります。考える力を伸ばし、行動に移すためにも重要なことです。甘い言葉には必ず見返りを求めることが含まれています。それは気づきにくいことでもあります。本当に何が自分のためになるのかは考えてもらいたいです。優しさと厳しさを兼ね備えることが理想と言えると思います。

結びに、「一年の計は元旦にあり」、皆さん、一年の始まりの元旦に目標や計画を定めてみましょう。明日は今日よりも、来年は今年よりも良くしたいと誰もが願っています。なりたい自分になれるように、自分に期待し、努力していきましょう。

それでは、ワクワクする新年、3学期を迎えられますように。